

## 第12回 IAGG マスタークラス参加報告： 国際的視点から学ぶ高齢者ケアと研究の最前線

呂 偉達

(日老医誌 2025 ; 62 : 114)

2024年5月22日から24日まで、第12回 IAGG マスタークラスに参加させていただきました。COVID-19の影響で、この Master Class は5年ぶりの対面開催となり、東京大学で開催されました。世界各国の研究者と深く議論できることを非常に楽しみにしていました。

東京の5月は一年の中で最も過ごしやすい季節の一つです。朝早く会場に到着しましたが、東京大学で学び働いている私でも、今回の会場の準備や環境には感銘を受けました。東京大学と国立研究開発法人国立長寿医療研究センターのチームが私たちを温かく迎え、講義が正式に始まりました。最初に、自己紹介を通じてお互いを知り合いました。次に、各国のチューターの先生方がさまざまな視点から高齢化問題の核心と最新の研究成果についてレクチャーを行い、その内容は非常に理解しやすかったです。午後には症例検討が行われ、私にとって非常に貴重な経験となりました。私は医師ではなく、高齢者のフレイル予防に関する大規模な調査とポピュレーションアプローチに焦点を当てた研究を行っていますが、このような個別の患者に焦点を当てた詳細な分析は、私の研究に大きなインスピレーションを与えてくれました。初日の夜には、参加者全員でパーティーが開かれ、和やかな雰囲気の中で研究と生活、趣味について語り合いました。

2日目の午前中には、各国のチューターの先生方から、包括的高齢者評価 (CGA)、フレイルとサルコペニア、精神状態などについてのレクチャーと議論を行いました。これらの議論を通じて、研究者として特定の問題を探究する際には、研究対象そのものだけでなく、その周囲の環境も考慮する必要があると強く感じました。午後にはいくつかのグループに分かれ、それぞれの研究成果を報告し、議論しました。私のグループには中国、韓国、



グループの集合写真

マレーシア、台湾、香港、ネパール、日本などからの研究者が集まり、臨床研究や基礎研究など多面的な発表が行われました。この発表は私の視野を広げ、グループ内のチューターの先生方からの詳細な評価とアドバイスは、私の研究に大きな刺激を与えてくれました。夜にはグループごとに懇親会が開かれ、さらに研究を含めてさまざまなことについて深く議論し合いました。みんなとても楽しい時間を過ごしました。

3日目には、初日のグループ症例検討の報告が行われ、各グループから選ばれた優秀な代表が全体の前で再度研究発表を行いました。最後に全員で集合写真を撮り、連絡先を交換しました。今後の研究での協力の機会を楽しみにしています。この会を通じて、共通の老年医学理念を持つ仲間と出会えたと感じています。

最後に、この場を御借りして、IAGG が私に与えてくれたこの貴重な機会に深く感謝し、そして、各チューターの先生方と研究者のご指導に改めて感謝申し上げます。